

# City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

## 新型コロナウイルス 阪神・北摂の自治体などの対応

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、各地ではトイレトーパーやマスクが品薄になる現象が起こったり、イベントも中止が相次ぎ外出を控える動きが強まるなど、人々の行動に変化が生じている。それに応じて各自治体や企業、個人事業主なども対応や対策に追われているが、どのような取り組みをしているのだろうか。現状についてまとめた(3月中旬時点)。



### 受診について

現在、個人が医療機関に直接行って検査をすることはできない。厚生労働省がまとめた目安をもとに、該当者については各自治体の「新型コロナ受診相談センター」への連絡を呼びかけている。

### 【帰国者・接触者相談センターに相談する目安】

- 風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上続く方
- 解熱剤を飲み続けなければならない方
- 強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある方

なお、高齢者、糖尿病や心不全などの基礎疾患がある人、透析を受けている人などは重症化しやすいため、上記の状態が2日程度続く場合には同センターに相談を。

### 新型コロナウイルスに関する窓口

	一般的な相談	帰国者・接触者相談センター
厚生労働省	0120-565-653(9時~21時)	—
兵庫県	078-362-9980(24時間)	—
神戸市	078-322-6250(24時間・多言語対応) 各区の相談窓口あり	078-322-6829(24時間・多言語対応)
芦屋市	—	0797-32-0707(平日9時~17時半)
西宮市	0798-35-3456(8時45分~19時)	0798-26-2240(8時45分~21時)

### 労働に関する窓口

休校になった小学校に通う子どもの保護者が休職するなどして所得が減った場合に対応するため、厚労省では休暇取得支援のための新たな助成金を開設。3月18日から申請受付を開始した。正規雇用・非正規雇用を問わず、労働基準法で定める有給休暇とは別に、有給の休暇を取得させた企業が対象。問い合わせは学校等休業助成金・支援金等相談コールセンター(0120-60-3999・9時~21時)。兵庫労働局でも新型コロナウイルスの影響による一般的な労働相談として、特別相談窓口を設けている(078-367-0850・平日9時~17時)。

### 【施設や店舗の対応事例】

#### ① 民間の保育園

阪神間にある民間が運営する保育園では、3月中旬に予定していた卒園式を当初中止する方向でいたが、案内を受けた保護者と運営側が複数回の面談を行い、規模縮小のうえ開催が決まった。保護者1名のみの参加、アルコール消毒を実施、親子ともにマスク着用という条件のもと、式は証書授与と所長の言葉で終了。飛沫感染防止のため園児による歌などの発表は中止となった。保護者の1人は「規模縮小は寂しいと感じましたが、実施してくれて本当に良かったと思っています。子どもにとっては一生に一度のこと。リスクがあることは重々承知していましたが、開催を決定してくれて感謝しています」と話した。

#### ② 運動施設

西宮市のパーソナルジムでは、コロナ対策の一環として「親子ペアトレーニング」を導入した。休校に伴い、一日中子どもと一緒にいる会員に向けて考案されたメニューだ。マンツーマンと少人数であるジムで、親子揃って身体を動かす機会を創出したいとスタートした。対象は会員とその子ども(小学生までで、子どもの料金無料)で、身体を動かして体力を向上し、免疫力アップを目的としている。

#### ③ 弁当宅配業者

北摂で弁当の宅配を営む事業所は、宅配の注文を受けた場合、みそ汁を無料で提供する限定サービスを実施している。「学校が休校となり寂しい、退屈な時間を過ごしている子どものためにできることを考えました」と店長。大口の注文が減り業績は厳しい状態が続いているというが、地域に支えられてきたという思いから、今回のサービスに踏み切ったという。

#### ④ 学習塾

茨木市の学習塾では、無料動画サイト「YouTube」を使って中学生向けに授業の無料配信を行う。一斉休校を受けて、きちんと勉強ができていないかどうかが不安だという保護者の声を受けて決定した。期間中は自習に不向きだといわれている「理科」の授業を行う予定という。



## 鮮やかなピンクのじゅうたん 今年も早めの開花に 25年前の地滑りの記憶

阪 急仁川駅を降り、川沿いに上流約20分歩くと、斜面一帯に鮮やかに広がるピンクが見えてくる。近づくにつれて濃淡のシバザクラ。例年はソメイヨシノが咲き終わった4月中旬以降に咲きそろうが、今年は暖冬の影響で4月初めには満開を迎えそうだ。甲山森林公園にもほど近いこの場所には、毎年1,000人を超える人々が花見に訪れる。

実はここ、1995年阪神・淡路大震災によって大規模な地滑りが起こった場所。仁川の両岸にある13戸の家屋が倒壊し、34人の尊い命が奪われた。この災害が繰り返されないよう、地中には水を抜く専用の管が張りめぐらされ、斜面は杭やブロックで補強されている。

シバザクラの手入れを行うのは、ボランティアグループ「ゆりの会」メンバー。災害



「仁川百合野町地区地すべり資料館」(西宮市仁川百合野町10)の横に建つ慰霊碑。毎年1月17日、ゆりの会などが合同慰霊祭を行う。



かつて幅約100m、長さ約100m、深さ15mの地滑りが起こった場所に、シバザクラが咲きほころぶ。(地すべり資料館 西側斜面)

当時、地域に明るさを取り戻そうと、荒れた空き地に隣住民の1人がコスモスを植えたことをきっかけに始まった会で、現在のメンバーは65人。現在も週2回、約20名が1万株を超えるシバザクラの手入れや雑草の除去を丹精込めて行っている。

シバザクラのほかにリンゴやシダレザクラなど、季節ごとに違う植物がこの場所を彩り、近くの小川にはホタルやサンショウウオが息する。豊かな自然を維持しながら、25年前の脅威の記憶を風化させないよう災害への備えを訴えている。